

## 新入会員諸君を迎える

会長 井上 真

去る三月二十五日に卒業式を挙げられた新歯学士諸君は、卒業と同時にわが東京歯科大学同窓会員として遇せられることはすでにご承知の通りであります。新入会員諸君、おめでとうございます。双手を挙げてお喜び申し上げます。諸君のお喜びは申すまでもなく特にご両親を始め、ご家族の方々のお喜び、ご安心はまた格別であらうと拝察いたします。

小学校を振り出しし、六、三、三、二、四の課程を終え、いよいよ学生生活の最後を終り、新しく社会人としての生活が始まるのであります。長い長い寒さに耐えて、新しい芽ばえの力がふき出そうとする頃、草木も鳥も花も四月の開花に向って希望をふくらませるころであります。

しかし人生航路に向って新しく船出した新造船、歯学士丸も成功の彼岸に到着するまでに、幾多の困難が横たわっていることを覚悟しなければなりません。春風胎蕩、春の海日ねもすのたりのたり哉、という日は一日もありません。酷暑になやむ夏、嵐吹きまくる秋、冬の木枯し、それらに対し一つつつ打ち勝ち、乗り越えて往かなければなりません。忍耐と勇気が必要です。世渡りと申しましようか、処世の術と申しましようか、これはなかなかむつかしいことです。学校で教わらないことばかりです。

文豪、夏目漱石は、草枕の巻頭に、知に走れば角が立ち、情に掉させば流される、意地を通せば窮屈だ、とかく人の世は住みにくい、云々と申しています。けれど世間に処してゆく上の金科玉条だと思えます。われわれ歯科医は社会の指導的立場にあるインテリであります。常に知情の高揚につとめ、周囲の人々に対しては、友愛と寛容の精神で接し、世間から信頼せられ、尊敬せられる人とならなければなりません。

諸君は、高雅なる学風千古に徹す、創立八十有余年の燦たる歴史を有する東歯大の卒業生であることを、片時も忘れてはなりません。東歯のヤングフェロー諸君、諸君の背後には八千の先輩の同窓が控えています。なんら臆することなく、躊躇うことなく、諸君の選んだ歯科医業に向って邁進して下さい。

血腸守之助先生がわれわれに悟された言葉に『歯科医である前に人間であれ』といわれました。この言葉こそわが母校の学風を語るものであり、永久不滅の金言であると思えます。西洋の諺に Healthy is better than wealth 健康に勝る富はない、と申します。

四六時中室内にいて、診療に従事するわれわれ歯科医は、特に健康に留意しなければなりません。諸君のご健康と、ご多幸と、ご発展を心からお祈りします。

## お知らせ

元同窓会々長 名誉教授

矢崎正方先生追悼会および追悼講演会

日時 昭和四十七年六月十日(土) 午後二時  
場所 東京歯科大学第四教室

追悼会終了後、矢崎先生のご業績を中心に補綴学教室の諸先生から追悼講演が行なわれる予定です。

会員名簿(四十七年度版)作成に  
いてのお願い

同封の記載カードは名簿作成のための必要資料でありますので、ぜひともご協力願います。

郵送料は本部支払いでありますので、切手を貼付しないよう願います。

なお完成の上は無料配布の予定であります

この会報へあなたの原稿を

次の一四七号(六月発行)は雑誌形式の増大号です。

随想、評論、詩、その他会員諸氏のご投稿で次号を飾りたいと思います。

締切りは五月十五日、四〇〇字原稿用紙で四枚以内程度にお願いします。

## 元同窓会々長 名誉教授

### 矢崎 正方先生 逝去さる



したが心筋梗塞により同日夕刻、不帰の客となられました。

心からお悔みを申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたす次第です。

なお、先生のご生前のご功績に對し五位に叙せられ、銀盃を賜りました。

矢崎正方先生は、八十才のご高齡にもかかわらず、非常にお元気で研究と診療を続けておられましたところ、去る一月二十九日急にご気分が悪くなり、直ちに入院し治療に当られました。

しかし、まことに残念なことで

### 矢崎 正方先生の追憶

東京歯科大学名誉教授 溝上 喜久男

昭和四十七年一月二十九日夜、

恩師矢崎正方先生の訃報に接して驚愕いたしました。先生は数年前に一時、痛風症のため悩んでおられました。最近ではならぬ故障もなく鑿鑿として診療を続けておられましたので、まさかこのように急逝されようとは考えられませんでした。詢に痛惜の念に堪えられません。今になってはただただご冥福をお祈りするよりほかにありませ

今なお私の脳裏に深く残っておりやがて助手、助教を経て大正十二年に教授になられました。

先生の助教時代、それまでの附属医院の一元総合的な診療体制を改め、保存科、口腔外科、継続架工義歯科、有床義歯科の四つの部門に分けることになり、矢崎先生が継続架工義歯科長に就任されました。当時、矢崎科長の許に配属されたのは、私と富岡季敏（故人）、今井祥一の両君で、科長以下わずか四名の小編成でありました。先生と私の特別なつながりは、この時にはじまったわけでありました。

大正十二年に病院の制度が再度変更になり、継続架工義歯科と有床義歯科および矯正科が併合されて補綴部ができた折、初代の部長になられました。その後矯正科は補綴部から分離して矯正部が設置されました。

先生は昭和十六年に退職されるまで、十八年間にわたり補綴部長の任に在られ、今日の補綴学教室の基礎を築かれたのであります。

先生は長野県茅野にお生れになり、諏訪中学を経て大正四年十月、東京歯科医学専門学校を卒業し、直ちに渡米、シカゴのロヨラ大学に留学し、大正六年に卒業して「ドクタールの称号を得、翌七年に帰国されました。

帰国後、直ちに母校に奉職されたのであります。帰朝当時のひとときわ颯爽たる先生の診療ぶりは

剖学的研究、特に義歯の咀嚼能率におよぼす影響（昭和四年）、「余の咀嚼運動器（いわゆる咬合器）（昭和五年）」であります。この咬合器は先生の咀嚼運動論に基づいて製作された独得のもので、世界に誇り得るものであります。著書としては歯冠継続架工学、総義歯学、局部義歯学があります。また昭和九年には慈恵会医科大学より医学博士の学位を授けられました。

先生は近代日本の歯科補綴学を体系づけられた創始者であり、かつ教育、研究および臨床の各部門における泰斗として、学界より尊敬された補綴学者であり、よき指導者であられたことは学派を問わず衆知の等しく認むるところであります。先生は研究面では頗る厳格であられたが、一面非常に温情ある人格者が熱心に後輩の指導をなされました。

前に述べたように昭和十六年に教授の職を辞して浅草橋で開業されましたが、その傍ら「精明会」

を組織して広く同好の士を集めて指導しておられました。しかるにこの診療所は大戦時、空襲によりおしくも消失してしまいましたので、終戦後ご自宅において開業されたのであります。昭和二十一年に母校が大学に昇格した際、再び講師として迎えられ総義歯学の講義を担当されました。

### 偉大なる日本の補綴学の父 矢崎 正方先生を偲ぶ

河辺 清治

矢崎先生には、昨年十二月の末お宅でお元気なお姿に接したばかりなのに、一月二十九日午後七時少し過ぎ、松宮副学長より電話で

恩師矢崎先生が心筋梗塞のため、午後六時三十分急逝されたとの通知に接し、驚きと悲しみにたえませんでした。

早速、落合のお宅に駆けつける  
と、目をうるませた奥様に迎えら  
れ、静かに眠られる先生のご霊前  
に無言のまま合掌する。

先生がおられなかったら、母校  
の補綴学教室の、今日の発展は見  
られなかったのではないかと思ひ  
頭が下る。

間もなく北村先生、精明会の饗  
庭、榎本両君、教室から鶴養補綴  
部長、田島君等が駆けつけて、多  
忙の内にも静かに恩師の霊を見ま  
もる。

矢崎先生は、日本の補綴学の黎  
明期に研究活動され、日本の歯科  
医学史上重要な学者となられた。

そこでチューリッヒに行かれた  
方はご存知と思いますが、ゲルベ  
ル教授が作られたギージのミュー  
ジウムのようなものを作って先  
生の功績をたたえてはとも考えま  
す。

思えば、私は昭和二年に、一学  
年の補綴学の講義を受けた時より  
四十五年の長きにわたりご薫陶を  
受けたことになる。当時、先生は  
咀嚼運動論のご研究中で、講義は  
大変難解であった。そして学問に  
きびしく、少しも妥協を許さない  
典型的な明治の人で、正義感に燃  
える熱心な補綴学の研究者である  
一方思いやりの深い方であった。  
そして昭和四年には「下顎運動  
の解剖学的研究、特に咀嚼能率に  
およぼす影響」を発表され、ギー

ジの顎路学説による下顎の全運  
動は咀嚼には関係がないと反論さ  
れ、昭和五年に咀嚼運動器(いわ  
ゆる咬合器)を発表された。

この論文は有床義歯の咀嚼運動  
を論じたもので、補綴学界に大き  
な波紋をなげかけた。

この学説を簡単に説明してみ  
ると、咀嚼運動時、側方位より中心  
咬合位に滑走する間は、作業側  
においては偏側性の均衡をたもち、  
中心咬合に至って両側性の均衡を  
確立するというもので、すなわち  
側方運動時、作業側においては全  
歯列が接触し、側方庄の負担は偏  
側性の均衡をたもち、この側方運  
動時においては均衡側の歯の接触  
は解除して、中心咬合位に至り始  
めて両側性の均衡を確立する、今  
日のSCHUYLERの提唱する補  
綴学的理想咬合と同じ咬合方式を  
四十年前に発表されておられた。

昭和十六年突然母校の専任教授  
をやめられてご開業になる一方、  
兼任教授として補綴学の指導にあ  
たられるとともに、精明研究会を  
組織し一般臨床家の指導に力を尽  
された。

昭和二十二年の寒い冬の夜(当  
時私は戦地から帰ってきたばかり  
でブラブラしていた)、十時を少  
し過ぎていたと思う。門をたたき  
人があるので、開けてみると矢崎  
先生が立っておられ、いきなり私  
に向けて、今月は何事があっても

「はい」と言えといわれた。当時  
のこととて火の気のない部屋に  
案内してお話を伺うと、奥村学長  
の命令で母校に補綴学の指導者が  
足りないから、明日有無をいわず  
登校するようにとのこと、兼任講  
師として矢崎先生の補綴基礎実習

指導のお手伝いをするということな  
った。矢崎先生の実習の指導の効果  
が上るにしたがい、私を助教授か  
ら教授に任命され、矢崎先生と  
もに私に専任教授になるように、  
奥村学長から専任教授にされたが、  
矢崎先生は持ち前の正義感により、  
戦時中母校を守った溝上、北村両  
先生に失礼になるといわれ、共に  
専任教授にならないようにと、思  
いやりの深い行動を取られた。

いつ頃から始まったか、毎年十  
二月の末に先生をお宅にお尋ねし  
て、先生のご研究に対するご指導  
を受けながらお話をしているうち  
に、私達の発表に対するきびしい  
ご批判を承る習慣となっていた  
が、昨年伺った時は、いつもと異  
って大変人なつくくなられ、誰々  
はどうしているかとしきりに聞か  
れ、私達の発表にもお褒めの言葉  
をいただいたりしたことが今は悲  
しい思い出となりました。

今、先生はすでにこの世にはな  
く、ただ先生の補綴学に対する厚  
いお心遣いを同窓一同心にだきし  
め、先生の功績を讃えご冥福をお  
祈りしたいと思ひます。

折り返しお返事をさせていただきます。

## 本部よりお知らせ

### 東歯大同窓会

### 全国ゴルフ大会予告

今秋行なわれる支部長評議員会開催日(十一月十八日)の前日に、  
会員相互の親睦を計るために東歯大同窓会全国ゴルフ大会を開催いた  
します。準備委員会を発足させ着手準備中です。

詳細については、次号六月発行の会報に発表いたします。

- 一、期日 十一月十七日金曜日午前八時スタート
- 一、コース 武蔵カントリークラブ豊岡コース
- 一、競技法 十八ホールストロークプレー アンダーハンデ
- 準備委員 城谷加寿雄、山田有勝、岡 肇、酒井雄学
- 担当理事 阿保喜七郎、熱田俊之助

### 本年の研修活動について

卒後教育の重要性は年々高ま  
ってまいります。同窓会ではそれ  
にお応えするために、従来日曜セ  
ミナー、金曜セミナー、夏期講習  
会、学術講演会等を企画実施して  
まいりました。しかし、その実施  
はあくまでも母校の教育の場にあ  
るスタッフの協力と不可分のもの  
であります。幸い本年度より東京  
歯科大学学会においても、新たに  
(学術部)

# 井上裕後援会

ニダカ

昭和四十六年十一月の総会において可決承認された井上裕後援会が今般結成をみるに至ったので、同君を全国の同窓会各位にご紹介すると同時に後援会結成までの経過についてお知らせいたします。



## 井上 裕君の紹介

歯科界のホープ、同窓井上裕君は昭和二年千葉県成田市に生まれた生粋の千葉男で、現在四十四才の働き盛りである。昭和二十年旧制成田中学を終え、東京歯科医専に入學、昭和二十四年に卒業した。東歯の伝統精神である血闘イズムを受けつぐ立派な歯科医である。学生時代は敗戦直後、交通不便な実家から毎日三時間もかかって通学。級友後輩の面倒をよくみ四年生の時は総代となっている。また非常にスポーツ好きで柔道特に角力部のキャプテンとして医歯薬大会等で大活躍。勉学にスポーツに青春を送りながら政治に目覚

## 井上裕君後援会結成の経過

め学生時代の昭和二十二年アルバイトで千葉県二区選出の故寺島隆太郎代議士の秘書となった。その時出身地の農村地帯で演壇に立つたことが発端で、以後寺島代議士の参謀として九回当選させた実績をもっている。また無医村診療にも出かけ当時の連合歯科大学の有志で千葉県印旛沼付近の農村地帯を検診して廻ったこともある。東歯を卒業するや直ちに印旛郡の無医村地区にて開業、歯科医療に専念して地域住民の口腔衛生向上に尽力し多くの尊敬を受けた。

昭和三十八年、若干三十八才で千葉県々会議員選に当選した彼は一期目にして総務委員長の重責をになうなど、数々の委員としての履歴をもっている。特に現在は三期目に入りその政治力もますます円熟味をおびてきた。また若さにも燃え不屈の闘志をもって県歯科界のために数々の業績をあげている。まさに行動と知性の闘将といえよう。もちろん本業にも熱心で印旛村瀬戸の本院のほか千葉駅前塚本ビル七階には院長以下二十名近いスタッフで歯科診療所を開設盛業中。家庭では芳枝夫人との間に三女あり良き夫、良きパパでもある。

昭和四十六年十一月六日、評議員会で吉田浩先生(千葉県支部)より井上裕君の国会進出の支援に対する要請があり、彼の人格、政治的活動について詳細な説明があったのち満場一致にて推薦することを承認した。

昭和四十六年十一月七日、同窓会総会において白川尚君(五十四期)より「井上裕後援会結成に關し承認を求めん件」の追加議案が提出され提案理由の説明があり、井上会長、鈴木芳信先生(千葉支部)より、これに対し賛意が示され満場一致で可決承認された。

昭和四十六年十一月八日、同窓会々長を始め、常任理事数名が千葉を訪れ県支部同窓会役員および五十四期会有志と打ち合わせを行なった。

昭和四十六年十二月十九日、井上会長ほか本部役員と県支部役員クラス会有志の協議の結果、全国同窓会支部長に後援会の結成が決議された件について今後の協力を求める依頼状を発送した。

昭和四十七年二月十六日、常任理事会において後援会結成準備委員会を作った。そして同委員会は趣意書案および会則案を作成した。

昭和四十七年三月十五日、全国理事会において井上裕後援会の趣意書案および会則案を検討の結果全員これを承認した。

## 二月講演会開催さる

同窓会主催の二月講演会は去る二月二十日午後一時半から母校において開催された。

日曜にもかかわらず大勢の会員が出席され、まず前学長杉山不二先生と井上真会長はじめ前同窓会役員一同に感謝状の贈呈が行なわれた。

次いで邱永漢氏の「円切り上げ後の景気の動向」と題する講演が行なわれた。ユーモア溢れる巧みな話術で難解な経済問題を興味深く解説した。

## 本部 短 信

### 1 行事・役員出張

- 2月2日 保険事業法人より引継ぎ
- 2月9日 主任会
- 2月10日 六歯科大学同窓連合会小委員会
- 2月16日 常任理事会
- 2月20日 講演会・展示会
- 2月21日 緊急医政懇談会
- 2月23日 六校会談
- 2月28日 ゴルフ大会準備打合せ
- 3月1日 墨田区支部との会合
- 3月2日 医政懇談会
- 3月9日 日歯役員代議員懇談会
- 3月11日 都歯役員代議員懇談会
- 3月15日 理事会

### 2 地区選出理事

- 北海道地区 26橋本 尚
- 東海地区 9穂積 藤雄
- 北陸地区 5菅田 晴山

### 3 支部長交替

- 広島県支部 1月21日付
  - 2高木 健吉
- 滋賀県支部 1月1日付
  - 15佐藤 健司
- 芝支部 1月25日付
  - 16・12下村 一登
- 本郷支部 1月1日付
  - 9田能村健司
- 栃木県支部 1月1日付
  - 11栗原 正三



今後の日本経済の見通しを、そのものズバリ指摘し聴衆を魅了した。

# 第七十七回

## 卒業式挙行される

東京歯科大学第七十七回卒業証書授与式は恒例により三月二十五日(土)午後一時三十分より母校ホールにおいて挙行された。



十九名である。

今回卒業証書を授与されたものは百八十一名で、これを大学設置以来の卒業生と合わせると二千七百三十六名、専門学校設置以来の卒業生と合わせると八千七百四十九名となり、高山歯科医学院創立以来のものを通算すると九千四百名に及ぶとのことである。

卒業生は上条教務部長の呼名により登壇、関根学長より一人一人全員に証書が授与され堅い握手を交わして降壇。つづいて温情あふれる学長告辞があり、石河理事長井上同窓会長よりそれぞれ祝辞が述べられた。祝電披露のあと、在校生代表専門課程三年坂本直喜君の送辞、これに答えて卒業生代表宮川謙次君の答辞があった。最後に小崎生恵君(同窓会事務局)のピアノ伴奏で校歌を高らかに斉唱、厳肅ななかにも終始和やかな雰囲気の中に閉式。

式は関根学生部長の司会により閉式、国歌斉唱のち松宮副学長により学事報告が行なわれた。本学在籍の学生は進学課程三百三十九名、専門課程六百八十八名、計千二十七名である。これらの教育にあたっては、教授五十一名、助教四十九名、講師五十二名、助手八十三名、合計二百三十五名で、ほかに非常勤講師百三

ひきつづき記念品の贈呈式が行なわれた。本会からは井上同窓会長が新同窓生全員に同窓会バッジと金一封を代表浅野順平君に、父兄会からは山本糧三会長が代表前島範子君に手渡された。そして卒業生からは青木憲雄君が母校へ卒業記念品を寄贈した。ちなみに記念品は式当日演壇を飾った豪華な演壇掛けであった。



卒業生一同拍手で送られて退場後、第一教室において全教授と父兄との懇談会があった。

午後五時三十分よりは、高輪プリンスホテルにおいて盛大な謝恩パーティーが開催され、卒業生、父兄、教職員五百名四十名一堂に融合、長かったであろう在学六年間をふりかえりつつ春宵のひとつを歓談にふけた。

なお、そのうち二十三名は大学院生、二十二名は助手として母校に残る。ほかに新設校への転出教授を募って赴任したり、国民医療の第一線に飛込む者等々。今後の健闘を祈念せずにはいられない。

卒業生一同拍手で送られて退場後、第一教室において全教授と父兄との懇談会があった。

### 逝去会員

推 鈴木 秀一 昭二・三	23 田川 明智 昭二・三	5 井上 勲 昭二・三	8 清野 茂 昭二・三	18 9 船坂 実 昭二・七	医 松井 倉吉 昭二・七	大 5 伊野 賢一 昭二・五	5 秋元 重雄 昭二・四	推 下村 二郎 昭二・六	推 杉田 末吉 昭二・六	医 菅原 勝右エ門 昭二・三	推 栗本 宗作 昭二・〇	推 大原 英男 昭二・三	4 片岡 宗作 昭二・三	名 大 6 池田 明治郎 昭二・一	推 山本 佐善 昭二・三	大 4 真砂 己義 昭二・四	16 12 山本 保吉 昭二・二	7 石井 一男 昭二・九	大 1 村井 成章 昭二・八
長崎県	静岡県	群馬県	宮城県	港区	岐阜県	島根県	宮城県	静岡県	十勝	宮城県	港区	高知県	茨城県	福岡県	静岡県	杉並区	東三河	神奈川県	千葉県

旭川支部 2月20日付

荒川区支部 10佐藤 邦重  
3月2日付

向島支部 18・9江里口 武  
3月15日付

本所支部 18・9関谷 三郎  
3月15日付

26武井 範彦

4 火災罹災会員  
高知県支部 推別役義文  
2月23日近火類焼

青森県支部 6館山 六郎  
2月13日診療所全焼

練馬区支部 10森田 信一  
3月13日自宅全焼

### 地区理事



橋本 尚(新任)  
昭和二十六年卒  
(北海道地区)



穂積 藤雄(新任)  
昭和九年卒  
(東海地区)

### ▼お詫びと訂正▲

会報第一四四号(昭和四十六年十二月発行)の八ページ、第七十七回 東京歯科大学同窓会定時総会の報告のなかで、議案四「井上裕後援会結成に関し承認を求める件」が脱落しておりましたので訂正し追加させていただきます。



「同窓会顧問

評議員名簿」

顧問 (敬称略あいうえお順)

荒巻 広政 荒谷 関三 青戸 陽一 井合 三 五十嵐 堯昭 五十嵐 庭治 五十嵐 嘉秋 入江 義次 上田 貞三 遠藤 莊三郎 大塚 豊美 岡本 清纒 鹿島 俊雄 北村 勝衛 片山 清一 河村 勝弘 菅野 清一 九津 見肇 小林 与兵衛 高良 瑞穂 佐藤 新一 沢口 源作 佐和 和美 杉山 不二 杉江 玄照 鈴木 重五郎 春原 定栄 清藤 志郎 清藤 勇吉 高木 健吉 高原 寛五 滝 義胤 高崎 亥生 田丸 将士 館山 文次郎 徳永 寅藏 中村 恒吉 長谷川 慶蔵 林 武夫 福島 秀策 堀内 清 堀江 銈一 村上 喜久男 村瀬 正雄 山川 卯平 山口 玄洋 山崎 正人 横矢 重包 吉沢 八郎 渡辺 昌夫

評議員 (敬称略)

支部長評議員

比例代表評議員

(○印)

船本 達也 (札幌) 上野 慶博 (函) 太田 秀夫 (小) 佐藤 邦重 (旭) 太田 泰正 (室) 服部 敏夫 (釧) 林 善威 (十) 佐々木 三知夫 (北) 松川 健二 (空) 浅田 喜三郎 (青) 金子 康雄 (岩) 中島 賢 (宮) 山中 馨 (秋) 山内 良介 (山) 豊田 良真 (福) 小汲 眞 (福) 遠藤 義平 (福) 堤 安 (茨) 上野 昭 (茨) 栗原 正三 (栃) 黒崎 弘毅 (栃) 磯 誠三 (群) 関根 友次 (群) 増田 悦蔵 (埼) 佐々木 八郎 (埼) 相沢 甲正 (埼) 吉田 浩正 (千) 百束 尚彦 (千) 木村 尚彦 (千) 村上 吉太郎 (学) 見上 條彦 (学) 清 (学)

佐々木 達雄 (千代田) 城谷 加寿雄 (丸ノ内) 鹿毛 俊一 (日本橋) 赤穂 英一 (京芝) 下村 良一 (麻布・赤坂) 児玉 良知 (麻布・赤坂) 矢内 良徳 (牛込) 鈴木 録二 (四谷) 藤林 博 (淀橋) 田能村 健児 (本郷) 高橋 一夫 (小石川) 齊藤 弘 (浅草) 中村 正弘 (下谷) 関谷 三郎 (向島) 武井 範彦 (本所) 塩津 栄一 (品川) 田中 宏 (荏原) 小野寺 桂吾 (目黒) 吉井 英祐 (大森) 佐藤 知也 (蒲田) 菊地 美彦 (世田谷) 朝長 秀夫 (玉川) 坂井 栄隆 (渋谷) 前島 鋭吉 (中野) 真砂 昌一 (杉並) 松本 正一 (豊島) 信太 主恩 (北) 西村 治 (滝の) 江里口 武荒 (板橋) 鈴木 盛板 (練馬) 市川 保 (足立) 藤尾 好彦 (深川) 二階堂 木博 (立川) 齊藤 孝正 (葛城) 中島 頼輔 (葛城)

田口 芳治 (江戸) 中村 正旭 (八丁) 桜井 秀純 (北多) 本間 章介 (西多) 岩本 正三 (神奈) 金子 博 (神奈) 丸森 二 (神奈) 豊浦 弘道 (神奈) 高橋 忠興 (神奈) 菊地 八郎 (山梨) 河村 孝義 (山梨) 朝川 孝篤 (静岡) 市川 嘉男 (尾静) 中川 博史 (尾静) 城所 定雄 (東三) 白瀬 昌三 (西三) 広瀬 久静 (岐三) 加藤 正威 (新三) 廣瀬 正一 (新三) 八百板 正一 (新三) 青木 正一 (北三) 森 芳夫 (中三) 山浦 安夫 (東三) 小口 勝夫 (南三) 菅田 晴衛 (富三) 牛村 宏 (石三) 藤山 一 (福三) 佐藤 健一 (滋三) 明 浩 (和歌) 岩崎 之 (奈歌) 小池 弘 (京歌) 村田 義幸 (大歌) 伊藤 嵩 (大歌)

沢田 英三 (兵庫) 松村 正澄 (兵庫) 梅田 三 (岡) 水川 勤 (岡) 小徳 静夫 (鳥取) 高木 健吉 (鳥取) 佐和 美 (島根) 伊藤 保 (山) 猪子 一 (徳川) 平田 正儀 (香川) 佐藤 正 (愛媛) 横矢 重和 (高知) 川村 泰造 (福賀) 栗林 真吾 (佐賀) 田代 弥平 (長崎) 加藤 武 (大分) 松本 謙一 (熊本) 浜田 良策 (宮崎) 浜田 謙之助 (鹿島) クラス代表評議員

山下 又次郎(更生会)  
 清水 明(更始会)  
 秋川 繁(十四会)  
 沢田 潔(珊瑚会)  
 島田 宗武(昭二会)  
 松井 隆弘(三辰会)  
 山口 重敏(四海会)  
 渋谷 孝磨(昭伍会)  
 藤尾 木好(鹿鳴会)  
 景山 博水(七星会)  
 榎本 太郎(蜂和会)  
 武井 憲二(昭久会)  
 吉川 大三(天心会)  
 堤野 敏郎(仁蜂会)  
 天野 博徳(燦志会)  
 前原 誠次郎(堅久会)  
 野口 春治(一志会)  
 福本 博(二六会)  
 福本 忍(十六会)  
 田上 金雄(五十一期会)  
 渡辺 弘(五十二期会)  
 三宅 直晴(いづみ会)  
 白川 尚(いとし会)  
 河西 一秀(いすゞ会)  
 中野 年朗(いそむ会)  
 野沢 昭(千秋会)  
 相田 英孝(一期会)  
 並木 俊雄(二期会)  
 佐藤 忠男(麒麟会)  
 氏家 英峰(四期会)  
 高橋 一祐(五期会)  
 大橋 和夫(六喜会)  
 山本 啓介(ジーン会)  
 菊池 豊(八紫会)  
 伊藤 博夫(久喜会)

野間 弘康(十期会)  
 武石 醇作(歯士会)  
 金子 讓(十二期会)  
 大井 基道(富己会)  
 神谷 文彦(踏志会)  
 田辺 晴康(志学会)  
 大町 泰彦(晃和会)  
 前島 洋志(四十四年卒)  
 長岡 寛征(飛翔会)  
 鈴木 真(四十六年卒)  
 斉藤 力(四十七年卒)

**会長指名評議員**

安嶋 宣忠 伊藤 吉蔵  
 加藤 敏行 九津見 侃  
 小池 光雄 小谷 虎次郎  
 佐藤 貞勝 地挽 鐘雄  
 杉本 幸 鈴木 義政  
 平 佐武郎 高田 直秀  
 津島 秀雄 長岡 寛伯  
 中川 俊彦 中久喜 八十  
 福岡 明 三輪 源七  
 宮下 清寿 山崎 文男  
 山本 為之(あいうえお順)

**同窓の五氏**

**新日歯執行部役員  
に就任**

この四月一日に発足した日本  
 歯科医師会の新執行部に次の各  
 氏が役員として就任いたしました  
 すが、ご活躍を期待しておりま  
 す。

副会長 齋藤 静三氏  
 常務理事 林 清氏  
 理事 堀本 信雄氏  
 理事 岡田 典氏  
 理事 杉本 典氏  
 理事 堀本 典氏

**支部のうごき**

**山形県支部**

昨秋の評議員会で再選され  
 た井上真同窓会長と、昨夏母  
 校学長に選任された関根永滋  
 博士、それにこのたび井上会  
 長から委嘱された隣県の花園  
 十之丞副会長とを迎えて昭和  
 四十七年度の山形県支部の総  
 会が一月三十日、上市市よね  
 や旅館において開かれた。

恒例による予算その他の議  
 事が決定し、そのほか今後二  
 年間の会務を運営する新役員  
 が決定した。

役員は豊田良介支部長以下  
 留任、監事および顧問その他  
 の役員もほとんど留任する  
 ことになった。

席上、前日急逝された矢崎  
 正方名誉教授の冥福を祈り、  
 井上会長からは同窓会と母校  
 との連繫の話、関根学長は少  
 々長講舌となったが母校の近  
 況と、新設二大学の姉妹校の  
 ことなどについての懇切な説  
 明があった。

当日の出席者は写真のとおり  
 りだが、前列左から太田岩  
 吉、後藤精二郎、横山八次、  
 小林与兵衛、関根学長、井上  
 会長、花園副会長、有泉形歯  
 会長代理、豊田良介高橋八十  
 吉、小村吉三郎、(二列目)  
 結城武夫、沼沢孝夫、高橋統

男、成藤浩一郎、大橋正三、鈴木  
 佳吉、小林与一、遠藤亨、竹田貞  
 一、清野正彦、(三列目)横山国  
 藏、五十嵐俊栄、林仁一郎、大沼  
 俊哉、大坪日出雄、尾形新、大坪  
 賢二、奥山誠、東海林真樹、松岸  
 吉晴、木村昭夫、相馬昭一、(後  
 列) 岩沼至、齋藤利世、東海林

修、岩沼甫、清水忠雄、長崎昭  
 夫、牧野伸一、公平泰行、八木一  
 郎、伊藤修一、鈴木形歯事務局  
 長。(齋藤利世)

**東北高等歯科出身**

**東歯同窓会員新年会**

京北高等歯科出身、東歯同  
 窓会員の新年会が去る一月二  
 十二日、土曜日、埼玉県大宮  
 市の清水園で開催された。母  
 校から山本義茂病院長が出席  
 され、手入れの良く行き届い  
 た美しい庭園を眺めながら、  
 新年会らしく華やいた気分  
 で、明るく楽しい会が進めら  
 れた。井上同窓会会長は、大  
 井前副学長の追悼会があった  
 ため、少々遅れて、出席され  
 た。会合は上平氏の名司会で  
 終始、和やかなムードであつ  
 た。

なお、当日の出席者は左記  
 の通りである。

山崎真弘、宮下清、篠原弘  
 岩崎芳雄、馬橋秀夫、佐々木  
 政男、永山鷹之助、塩野真良  
 猪狩忠衛、神岡時雄、山田達  
 雄、加藤茂、大槻昇三、栗城  
 喜助、渋谷満、福沢衣遠、杉  
 田恵二、上平初五郎





# クラス会だより

## 鹿鳴会

昭和十年卒

総会開催のお知らせ

昨年、新潟の佐渡において第三十五回臨時総会を開催いたしました折、本年は四国で開催することを決定し、松崎剛君に計画を一任いたすことになりました。

最近、同君ほか四国在住の同級生諸君が協議の結果、本年六月十六・七・八・九の四日間、四国観光を兼ね第三十七回臨時総会を開催したい旨の連絡がありました。

私もその好意を謝し、開催をお願いいたしますことにいたしました。

追って、現地より具体的な計画の連絡があると存じますので各位には本計画にご賛同の上ご家族ご同伴で是非ご出席下さるようお願いいたします。

右取敢ずご連絡申しあげます。

鹿鳴会幹事長 木村吉太郎

## 二六会

昭和十八年卒

この誌上で、御目にかかるのも随分久し振りですが、諸兄御元氣



ですか。  
昨年十一月六日のクラス会総会

には、次の諸兄が参加し、久しぶりの再会に楽しい一刻を過ぎました。

- 三浦欣一、渡辺匡、長内秀夫、竹田貞一、中島賢、高田真、梁瀬康三、三原寿夫、田中滋、鈴木芳信、酒泉浪夫、杉山英世、梅井善行、熊谷一義、木村正樹、小林淳悟、田中武臣、鹿内忠臣、船坂実福本博、今井政弘、佐藤貞勝、近藤正夫、小倉修二、小島薫正、榎本要三、板倉一民、佐塚樹一、林輝幸、小口勝衛、渡辺秀夫、関川嘉治郎、黒岩深、角谷文祥、畠山恵行、宮川正己、山崎安隆。

◎本年の二六会旅行は五月十九日(金)、二十日(土)、二十一日(日)の日程で九州廻遊も決定致しました。詳細は各自に郵送致します。在九州の諸兄が歓迎態勢を整えつつ諸兄の来着を鶴首しておりますので是非共諸事投げ打って、一人でも多く参加されます様切望致します。

◎昨年は、元文信章、小島安正、両君が死去されましたが、去る、二月五月、船坂実君が急逝されました。心筋硬塞というのですが近時悪化した糖尿病が、その原因になったことは事実の様です。

寒風吹き捲くる通夜の晩、駆け付けた在京、近在のクラスメート十余名の間で、田中武臣が『みんな気を付けて長生き仕様や』とボツリといいました。長生きするこ

とに誰も異議のあろう筈もないが、扱て具体的に、気を付けるとは如何いことなのか。死んだ船坂自身がいつていたそうだが、夕方からの我々の診療所は、マルで大衆酒場だ。

五十の関門を超えた我々が今、何の反省もなく、オーヴァーペースな診療を相変わらず続けているのではないか。『身体に気を付け様や』とか『大事にしろよ』というせりふが単なる社交辞令ではなく、物理的に効果あるものであることを、この機会に真剣に考えてみる必要がある。

矢張り通夜の晩、焚火を燃やし乍ら、熊谷一義が、『俺はゼッタイ死なないぞ一死死なないゾー』なぞと科学者の端くれとしては生物学的にチトどうかと思われる様なことを喚びていたが、何も熊谷だけの心境ではなく、誰にも、最後まで生き残るのはこの俺だ、位の図々しい気持はあるのではないか。とすればトンダ事故の生ずる原点がここにあるのである。

三君の冥福を心より祈ると共に、諸兄の御自愛を切に望む次第である。



東遊会昭和46年度総会 (伊東温泉菊家ホテルにて)

前号掲載が本号に延びたことをお詫びいたします。(編集係)

## 東遊会

# いづみ会

昭和二十三年卒

第二十四回総会は昨年十一月十三日、錦秋の北陸片山津温泉ホテルながやまで開催された。北は北海道の神保、館山君、南は九州の河野君をはじめ実に六十四名参加の盛況でなかに前々日、前日からの滞在あるいはさらに泊延長のグループも出る始末だった。

当日はホテルの迎賓館を貸切り総会は午後五時開会、鮎瀬幹事の司会で和気藹々のうちに終了。なお役員は矢内会長ほか全幹事留任と決定された。御米賓としてお招きした北村勝衛、渡辺富士夫両先生にはそれぞれの歯大設立準備のため急に御臨席いただけなくなり全く残念であった。しかし中久喜君から母校の現況、将来あるいは新設校の概要などの報告があり一同耳を傾け意を強くした。

懇親会に移り地元芸妓の愛染踊り、湯の花太鼓のアトラクションも受けたが、駒橋君の久し振りのハーモニカは蕪山疎開当時を偲びながらアンコールに次ぐアンコールで好評だった。翌日一部は片山津ゴルフ場へ、一部はバスで安宅の関跡、那谷寺、忍若寺、兼六公

園などを観光後金沢駅で解散。その後も名残りを惜しみ、深夜まで北陸の美酒に酔いしれた御仁もあつたとか。

出席者(順不同) 河合、森、市川、萩原、鮎瀬、大坪(俊)、梶川、中村(正)、井川、山下、小山西田、辻、原田、浅井、鈴木(裕)平野、岡、村松、斉藤(登)、矢内池内、石田、清水、沖、駒橋、築瀬、栗原、佐藤(卓)、丸川、宮下(七)、成田、福岡、永田、竹井、菊地、小枝、本目、高藤、黒川、中久喜、松島、横田の諸君、近藤(博)、神保、稲野、館山、河野(好)、堀内御夫妻、柚木、竹下、中川(渉)、仲谷、長田の当番幹事

ゴル参加者は館山夫妻、近藤夫妻、小山、永田、平野、原田、横田、仲谷(二位小山、二位近藤)の諸君。(長田記)

## ◎第二十五回総会案内

前回は本会北陸支部諸兄の絶大な御努力により開催されたが、今回はまたまた近畿支部の格別のお骨折りで鋭意準備が進められています。すでに会員各位に御通知の通り我々のクラス主任としてお世話になった北村松本歯大工学長、加藤同病院長、渡辺東北歯大病院長三先生の御乗転と級友池野谷君(東北歯大)、佐藤(勝)君(松本歯

大)の教授新任の祝賀会も催したので多数会員の御参加を期待いたします。

日時 六月十七日午後五時  
場所 兵庫県有馬温泉グラウンドホテル (〇六)九〇一〇二〇  
会費 一万七千円(二万円前納) 下同伴の場合はルームチャージ二千円、十八日はバス観光。連絡先 空ニ崎市七松町一六一一九 清水 修君宛 (〇三三)六一五五

# いとし会

昭和二十四年卒

過日、各会員あて送付しました「井上裕をげます会」に多数の御協力を得ることができまして、感謝致しております。未だ御忘れになっておられる会員につきましては、至急御連絡下さい。現在東歯大同窓会本部に井上裕後援会が結成され、この度発足致しましたので、井上君自身も大いに張り切り連日大忙で活動しており、今後ともに同級生諸兄の格段の御支援を重ねて御願致します。

次に第一報にて御知らせ致しました本年のクラス会は、六月四日(日)、正午、横浜駅前集合、バスにて約二時間市内観光、午後三時頃より、横浜シルクホテルにて懇親会開催。午後六時頃閉会ということが決定されました。尚今回の

クラス会の特長として、従来行なわれなかった東歯大関根学長を始め、松宮、山本両教授、松本歯大北村学長、東北歯大村瀬学長、及び中村保夫教授等の懐しい恩師の方々を、御夫妻で御招待致してあり、会員についても原則として同僚のクラス会となります。是非とも奥様共々の御出席をお願い致します。又四日は日曜日ということ

で、健保の請求等の関係で、特にお忙しい事でしょうが、どうぞ前もって御準備の上、是非とも御出席下さいませよう御願致します。何れ細部にわたってのスケジュールは後日連絡致します。(幹事 三島記)

# 五十鈴会

昭和二十五年卒

春の陽の輝やく季節になって来ましたが、内外共に話題の多いこの頃ですが、全国の諸兄お元氣ですか、月日のたつのは、全く早いもので、卒業はや二十二年になり、すでに二世が歯科の道にすすんでる者もでてきています。真に御同慶の至りです。さてクラス会も、絶えることなく

く、毎年開かれておりますが、各地の諸兄のお骨折りで、いつも盛大に行われて来ました。感謝する次第です。

昨年は、久し振りに東京で開かれ、新宿プラザホテルに、四十余名の出席をみ盛大に行われその席において、今年のクラス会は、遠路北海道と決定、園田・高橋(博)君をはじめ、在道諸兄にお骨折を願うことになっていきます。

日取は、六月二十三日―二十五日迄、梅雨期のない、北海道は、絶好の観光シーズンと聞いております。腕によりをかけての受入態勢とのこと、乞御期待という所です、是非多数の参加をお願いいたします。そのうち詳細が届くと思

います。次に、我々には残念ながら卒業アルバムが有りません。それで、昨年の会において、二十五年を期して、五十鈴会のアルバムを作ろうということになり、河西・大山・長田その他東京在住の諸兄により、構想を練っております。よろしく御協力をお願いいたします。(長田記)

# クラス会だより

昭和四十七年四月十日 印刷  
編集 発行人 伊 丹 印刷 株式 会社 男  
刷 所 一 世 印 刷 株 式 会 社  
東京都千代田区三崎町二丁目九番地十八号  
電話 東京 (二六二) 三四二一(代)

# お知らせ

## ◎夏期講習会

矯正 「前歯部叢生の診断と治療」

七月十七日(月)より十九日(水)

口腔外科 「最近における顎顔面外科の動向」

七月二十日(木)、二十一日(金)

保存 「歯槽膿漏の局所療法と関連療法」

七月二十四日(月)、二十五日(火)

補綴 「咬合器の種類と選択」

七月二十六日(水)、二十七日(木)

○詳細は本号四、五頁をご参照下さい。

## ◎昭和四十七年度同窓会総会

期日 十一月十八日(土)

会場 東京・品川・高輪プリンスホテル

○連合支部代表者会議 午前九時三十分

○支部長、評議員会 午前十時

○鹿島および井上後援会 午後二時

○同窓会総会 午後二時三十分

○会員頭形式 午後四時

○会員懇親会 午後五時より七時

## ◎全国ゴルフ大会

期日 十一月十七日(金)

会場 武蔵カントリークラブ豊岡コース

会費 一万円

○お申込方法は本号八頁をご覧ください。

# 目次

お知らせ	1
会長挨拶・叙勲者芳名・新機軸による東歯大学会スタート	2
矢崎先生の御逝去を悼む	3
夏期講習会案内・本部短信・お願い・逝去会員	4
会員訪問	6
井上裕後援会・趣意書・会則	7
医政懇談会開催予告	7
日歯役員・代議員・都道府県会長・政連役員	8
全国ゴルフ大会案内	8
昭和四十七年度入学者氏名	9
母校より	10
寄稿	11
支部のうごき	12
クラス会だより	16
	17
	17
	20